

# 2016年5月7日（土曜日） 残雪の燕岳③ 最終日下山編

～Report by Yosimatu～

予想はしていたとは言え、昨夜来の風雨が気がかりであった。特に強風は御免こうむりたかった。

男性部屋のみんなは4時過ぎくらいからゴソゴソと起きだした。早めに起きていた熊本さんから、「雨は霧雨だが風はまだ強い」との報告があり、小屋から合戦小屋までの下山道が少々心配であった。

しかし十分用心すれば下山できないほどでもないようなので、とにかく当初の予定通り行動することになった。

4時半には全員起床。5時過ぎにはほぼ準備が完了して戦闘モードに入った。



朝食は5時半。さっぱりとした献立だが、昨夜はしっかり睡眠をとってみんな食欲は旺盛だ。



6時15分。雨、風対策を充分行って、燕山荘玄関前で集合写真。我々が一番早い出立だったかもしれない。





山荘を出たすぐの西側では、風速20mくらいは有ったのではないか。下山中に我々が受けた風のなかでは最も強く吹き付けて、少々恐怖をおぼえた。

熊本さんから、「万一帽子、ザックカバーが飛ばされても取りには行かないこと」と厳命が下った。

昨日燕山荘主人の話にも有ったように、転倒は命取りになる。バランスを取りながらゆっくり進んだ。



6時25分

少し下っただけだが、西風の強風を山が壁になって受けてくれるようになり、写真を撮る余裕も少し出てきた。



時々思い出したように吹く強風に身体を取られないよう、細心の注意をしながらの下山だ。



6時47分

合戦沢ノ頭辺りで小休止。

ここまでくれば、仮に転倒しても谷底まで滑落するようなことはなさそうだ。



体が冷えないように小休止は短時間にして、再び歩き出した。

7時、合戦小屋に到着。大休止をとる。

最も危険な場所は無事に通り過ぎた。ここまで降りてきて流石にホッとした。みんなの顔にも笑みがこぼれる。



合戦小屋からは、すっかり足取りも軽くなった。



富士見ベンチも過ぎて8時頃になると、時々木々の間から明るい日差しも刺してきた。



8時10分

第三ベンチで休憩。



8時35分

第二ベンチで小休止



9時5分

第一ベンチで小休止



9時18分

第一ベンチも過ぎると、いよいよ空が明るくなり山の稜線も良く見えるようになってきた。

9時30分を過ぎると、眼下に中房温泉の屋根が時々見える。燕岳登山口はすぐそこだ。



9時37分

燕岳登山口に到着。

ベンチにザックを下し、ホッと一息。熊本リーダーが余裕を持って計画を立ててくれたお陰で、予定時刻の30分前に下山した。

暫し休憩をした後、三々五々有明荘に向けて移動。10時前に有明山荘に全員が到着した。靴の泥を落とし、スパッツやズックカバーを仕舞ったりしていても、心は早くも温泉とその後の生ビールに！  
熊本リーダーから「11時15分に有明荘食堂集合」の指示が出て、早速汗を流しに温泉に飛び込んだ。



心ゆくまで温泉に浸かり、最後の荷物整理。



11時15分

食堂に一同集って、穂高地ビールで乾杯！  
（この一杯はたまらない！！ビールだけで収まらないのが、いつものクマさん会の悪癖か。大雪溪生酒にも手が出てグビグビと・・・）



（生酒）

つまみには、「のざわ漬け」と「コシアブラのてんぷら」（写真左）。

昼食には、「ソースカツ丼」「山賊焼き定食」「天ざるそば」などに舌鼓を打った。（写真左2番目から順に）



飲んで騒いで瞬く間に1時間。田形さん、横川さんとはここでお別れ（写真左）。外の8人は早くから待っていてくれたジャンボタクシー（写真右）で、一路穂高駅に向けて出発。



ビール、はたまた酒が効いたか、乗り込んで笑顔の布目さん、中島さんも10分後にはご覧のとおり（写真右）。

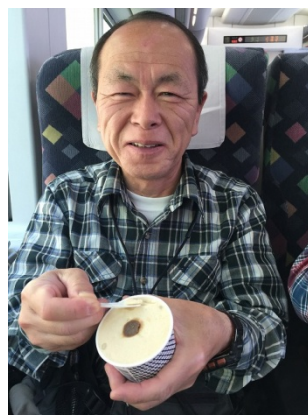


穂高駅から松本駅までは大糸線で移動。松本駅からは当初の予定より1本早いあずさ20号（13時47分 松本発）に乗ることが出来た。たらふく飲んだはずの中島さんもすっかり目が覚めまして、またまた乾杯。おとな

しく寝ていたのは、布目さんだけだった。



車中で「信玄餅アイス」なるものを販売していて試しに食べてみた。なかなか美味しいアイスで、しかも、熊本さん持参のバーボンをアイスの上に一寸落とすと、これが実にたまんねんだよな〜。「うま〜い！」



「あずさ20号」は快調に走り、お酒もほどほど回ってきて、帰宅は予定より1時間程早くなる予定だったのであります。・・・が、誰が言い出したのか今は記憶に定かではありませんが、八王子の「そば酒房 凜や」の「へぎ蕎麦」を思い出した人がいて、途中下車することになったのです。(布目さんだけがその列車で順調に帰宅)



「凜や」ではクマさん会御用達の1枚板のカウンターに陣取って、またまたビールで乾杯。



(プレミアム生熟撰)

「なすの一本漬」「いかの塩辛」をつまみに、当然ビールだけで我慢が出来ず、「越乃石翠」なども飲んでしまつて・・・かなりヘロヘロ。

最後のメは当然「へぎ蕎麦」。

大箱1箱で間に合うはずが、やっぱり間に合わず、「小箱」を追加注文。「小箱」のあまりの少なさに、更に「大箱」をあわてて又注文。全く良く飲み、よく食べました。



へぎ蕎麦「大箱」



へぎ蕎麦「小箱」



今回の燕岳登山は例年と比べてかなり雪が少なかったけれど、それなりに雪山登山が楽しめた。特に山頂から見渡せる北アルプスの北から南までの山々が、我々に感動を与えてくれた。いつものことながら、素晴らしい温泉と美味しいお酒も堪能した登山であった。